

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第9回） 議事要旨

日時：平成21年7月6日（金）14:00～16:00

場所：内閣府本府庁舎政策評価審議官室

議事：平成20年度政策評価書案等について

出席者（懇談会メンバー）

座長 山谷清志 同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科教授

田中弥生 独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部准教授

南島和久 神戸学院大学法学部准教授

<懇談会で出された主な意見>

（平成21年度実施計画について）

○官民人材交流センターの目標値については、来年度以降は出てくるのか。

→ 初年度で相場観もつかめないということで今回はこのような目標値となっている。実績を出してからそれを改善するという方向で目標値は今後出していければと思う。

（平成20年度政策評価書案について）

○ 予算執行率との関係で、執行率に問題があるとすれば、政策目標値自体をもっと野心的なものに改善する方向に検討するか、予算額を見直すかという議論は面白いと思う。

○ 予算執行率の観点から、この目標を達成するのに適正な金額はどの程度か、場合によっては設定した目標自体に問題があるのではないかという論点が出てくる。

○ 執行率が悪いものは特定の政策・施策に固定化されている印象。

○ 経済財政の評価書などについては、基本目標に対しての施策の関係が論理的にわからない。個別施策の推進がどのように経済財政の基本目標につながっているのかをわかるようにした方がよい。内閣補助事務が評価の対象外となっているのであれば、その旨をきちんと記述した方がよい。

○ 現在の評価書案は、内部の人にとってのモニタリング管理シートに見える。この評価書を使った方が担当部局は政策を管理しやすいのではないか。どちらかといえば、外部向けよりは内部の人たち向けに使いやすい内容だと思う。

○ 外に見せる評価書ということであれば、評価の結論を先に記述し、参考資料として指標を添付するという形が考えられる。

○ 「質の行政改革」の議論が出てきたというのであれば、政策評価との役割分担の話が出てくるのではないか。

○ 政策評価の単位を引き上げてしまったことから、従来の施策単位と比べて必要性、効率性の観点からの記述につき焦点がぼやけてしまうが仕方がないか。

(質の行政改革について)

- 人事評価との連動ということになると、チャレンジな仕事をしなくなる懸念はないか。
- 岩手県の岩手マネージングシステム(IMS)は一定の効果があったようであり、それを取り入れたいということなのではないか。岩手県職員の人事交流もあると思うので、その人たちから話を聞いてもよいのではないか。

以上